

東洋と西洋の医療を学び、
時代に合った
医療のあり方を考える。

本学科では、東洋医学の専門的な知識・技術だけでなく、現代医学の基礎的な知識も総合的に学びながら、これからの医療人に求められる幅広い知識やコミュニケーション能力を身につけることができます。また、授業や実習を通じて、鍼灸学に関する専門知識と治療技術を学ぶことができます。さらに、最新の研究に触れ、研究的思考能力を高めることで、鍼灸学の科学的解明に貢献できるようになります。

WHO(世界保健機構)はこんなに多くの効果を認めている！

一般的に、鍼灸治療は肩こり、腰痛、神経痛、関節炎などにのみ効果が有るように思われがちですが、WHO（世界保健機構）が鍼灸治療は以下の疾患に対しても効果があると認定しています。

- 運動器系疾患

関節炎、リウマチ、肩こり、五十肩、腰痛、腱鞘炎、むちうち、捻挫など
- 神経系疾患

頭痛、めまい、神経痛、自律神経失調症
- 消化器系疾患

胃腸病(胃炎、消化不良、胃下垂、胃酸過多、下痢、便秘)、胆嚢炎、肝炎など
- 循環器系疾患

動悸、低血圧症、高血圧症、息切れ、動脈硬化など
- 呼吸器系疾患

気管支炎、喘息、風邪および予防
- 代謝内分泌系疾患

痛風、貧血、糖尿病など
- 婦人科系疾患

生理痛、月経不順、更年期障害、冷え性、膀胱炎、腎炎など
- 耳鼻咽喉科系疾患

中耳炎、耳鳴、難聴、メニエル氏病、鼻出血、鼻、蓄膿(ちくのう)、咽喉頭炎など
- 小児科系疾患

小児喘息、消化不良、夜尿症、食欲不審など
- 眼科系疾患

眼精疲労、仮性近視、結膜炎、疲れ目、かすみ目、ものもらい

鍼灸治療はなぜ作用するのかということを科学的に明らかにするためのさまざまな基礎研究も行われており、これまでに、鍼による鎮痛メカニズムや血液循環(血行)改善のメカニズムなどが証明されてきています。しかし、まだまだ足りません。研究者がもっと増えることが期待されています。

INTERVIEW 01

患者さんと二人三脚で
一生付き合っていく。

鍼灸師
健心堂はりきゅうマッサージ 勤務
東京都 関東第一高等学校 出身 〔 2014 年卒業 〕

白倉 望 さん



Q なぜ、今の仕事を選んだのですか？

A 最近鍼灸接骨院が増えていますが、私は在学中から鍼灸一本で働こうと決めていたため今の治療院に就職しました。鍼灸治療を試しに部分的にやってみる患者さんも多く、医療行為というよりはマッサージの一環として来る場合もあります。しかし、値段が安いという理由ではなく、技術があるという理由で患者さんが通ってくれる鍼灸師を目指しています。今の治療院で、鍼灸師としての技術をしっかりと身に付けたいです。

Q どのようなときに
仕事のやりがいを感じますか？

A 患者さんの状態が良くなるのは嬉しいですね。例えば、膝の曲がらない患者さんが正座が出来るようになったときは、喜んでくれて、「ありがとう」と言ってくれたのを覚えています。他にも、一生懸命生活に励んでいる方にお子様が出来た事を聞くと、仕事のやりがいを感じます。ただ、治らないと来なくなってしまふ患者さんもあります。多くの場合、鍼灸治療に大切なのは体質改善なので、ご自宅でも体を温めるなどの行為を習慣化するようにお伝えしています。

人体の構造や機能を学び、
日本の伝統医療を
現代の医療に活かす。

骨折・脱臼・捻挫・打撲などの外傷を治療する柔道整復師は、日本発祥の柔術を起源として長い歴史を持っています。本学科では、柔道整復学を「理論」と「実践」から学び、「伝統と経験の技」を身につけることができます。さらに、接骨院や整形外科などでの研修を通じて、高度な臨床経験を重ねることができます。これによって、社会でも活躍する柔道整復師を目指すことができます。

歴史ある日本独自の伝統医療。
自然治癒力を最大限に発揮させる。

日本古来の武術のひとつである「柔術」には、相手を殺傷する「殺法」と傷ついたひとを蘇生・治療する「活法」があります。殺法と活法は、発展変遷をとげ、現在「殺法」の技は競技柔道に継承され、活法は負傷者に施す治療法として「ほねつぎ」「接骨」として伝承され、「柔道整復術」となっています。柔道整復師は骨や関節、筋や腱、靱帯といった箇所に発生する骨折や脱臼、打撲、捻挫、挫傷などを手術をしないで治します。整復、固定などを行い、人間の持つ自然治癒力を最大限に発揮させるのです。

柔道整復と整体には、「整」という文字があるので、身体を整える似たような職種だと思われがちです。柔道整復師と整体師違いは主に2点あります。1つめは資格の種類が違う点です。前者は国家資格で、後者は民間資格です。2つめは、保険が適用されるかどうかです。柔道整復師は、整形外科治療の補充を行うことが許されていますので、治療行為に対して病院と同じく保険が適用されます。しかし整体師は、痛みを持って訪れたお客さんの患部への治療はできません。日本標準産業分類によると「その他の療術師」とあり、「温熱療法、光熱療法、電気療法、刺激療法などの医療類似行為を業とする者」とあります。治療行為ではなく医療類似行為と分類されるので、保険が適用されないのです。

INTERVIEW 02

父の背中を見て選んだ道。
信頼される柔道整復師を目指したい。

柔道整復師
根本接骨院 勤務
茨城県 常磐大学高等学校 出身 〔 2013 年卒業 〕

中川 翔太 さん



Q 柔道整復の道に進んだ理由を教えてください。

A 高校三年の中ごろまでは別の職業にしようと考えていましたが、なかなか勉強でうまく行かずに悩んでいました。そんな時、柔道整復師で花田学園の卒業生でもある父から大学にうつて知りました。接骨院を開業していた父と患者さんのやりとりを見て、来院した時には痛みで苦しんでいた患者さんが帰る時は笑顔になって帰っていく、このような光景を見て私も柔道整復師になりたいと思いました。

Q なぜ現在の就職先を選んだのですか？

A 今働いている接骨院院長の根本恒夫先生は大学でも講師として講義していただきました。その時、先生の骨折整復技術や包帯固定に魅了され先生のもてでもっと技術を学びたいと思い、就職先に決めました。勉強すればするほど知りたいことが増え、より多くの医療本を読むようになりました。現在は、地域の方に信頼される柔道整復師、そして子どもや選手にケガなくスポーツを楽しんでもらえるようなアスレティックトレーナーを目標に、日々努力を重ねています。

誰もが安心して健康増進を
行えるように、適切なケアの出来る
専門家が求められています。

アスレティックトレーナーコース
健康運動実践指導者コース

生活習慣病の予防としてスポーツをはじめの人が増えているように、現代はかつてないほど多くの人々が自分自身の健康を意識している時代だといえます。そのなかであって、ケガの予防や治療を行い、正しい知識を持って相談に応じられる専門家の存在は、社会的にも大きなニーズが発生しています。

国内で活躍しているアスレティックトレーナー(AT)の
多くは医療系国家資格保持者です。

- アスリートをサポートする現場では、医療行為を行える資格を持っていることは大きな強みとなります。そのためスポーツの現場で活躍している専門家の多くは、医療系の国家資格を保持しています。本学では鍼灸師・柔道整復師の資格取得を目指しながら、本コースを履修することにより、スポーツや健康増進という分野へも活躍の場を広げることができます。
- 【取得を目指す資格】

●アスレティックトレーナーコース

・(公財)日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー 受験資格

・(公財)日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー 受験資格

・(公財)日本スポーツ協会 公認スポーツリーダー

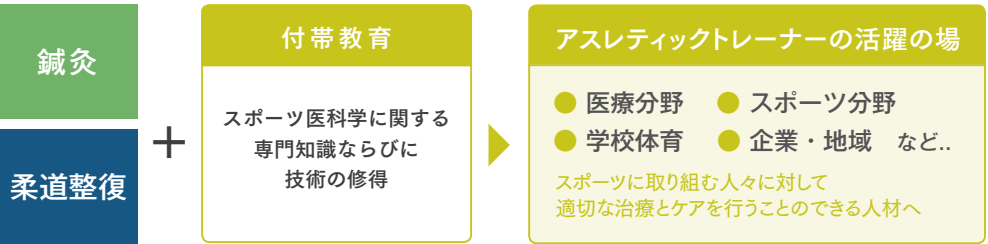
・(公財)健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者 受験資格

・日本赤十字社 赤十字救急救命教員

●健康運動実践指導者コース

・(公財)健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者 受験資格

・日本赤十字社 赤十字救急救命教員



INTERVIEW 03

心と身体に寄り添い、
困ったときに頼れる存在になりたい。

アスレティックトレーナー・鍼灸師・柔道整復師
クボタスピアーズ 勤務 株式会社リニアート 所属
東京都 日本体育大学荏原高等学校 出身 〔 2013 年卒業 〕

櫛田 慎一 さん



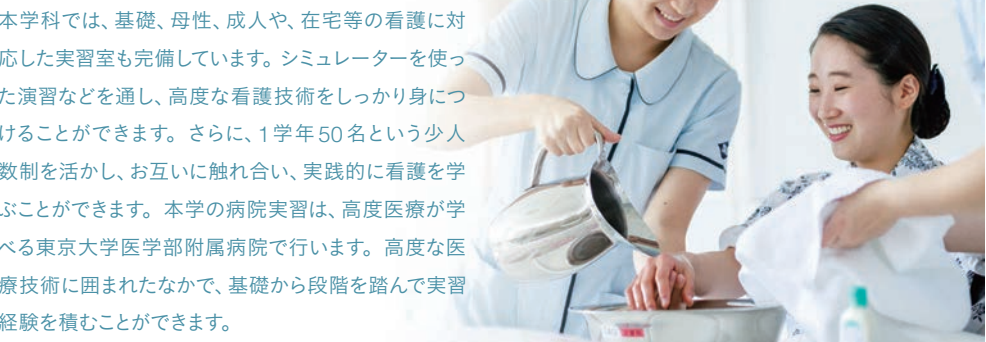
Q アスレティックトレーナー(AT)になったきっかけを教えてください。

A 選手の傍で働きたい、という気持ちが大きくATという職業に惹かれました。学生時代から治療院に通っていたこともあり、患者の立場からATという職業に価値を見出せたことも大きな理由です。最初は鍼灸を学びたいと思い専門学校オープンキャンパスに行きましたが、そこで花田学園が大学を設立するのと知り、4年掛けてしっかりと鍼灸を学びたいという思いがあり、東京有明医療大学に進学を決めました。

Q ATとしてどんなお仕事をされていますか？

A 一言で言うと、選手のコンディショニング管理です。例えば選手にテーピングを巻いたり、故障や症状のある選手の治療をしたり、グラウンドレベルで怪我が起きたときの対応をします。また、クラブハウスに戻って、身体の不調を訴える選手に対し、鍼治療も行い、試合に向けてのパフォーマンス向上のサポートをしています。

1学年50名という少人数の環境で、
人の生きる力を引き出すための
看護を提供する力を養う。



看護師、保健師、助産師も全て看護職のひとつ。
自分がやりたい仕事を見つけよう。

- 【看護師】

●主な仕事

問診や各種検査、点滴、採血、注射、食事・排泄の補助、患者移送、検温や入浴の介助、体位交換、記録、巡回、ベッドメイキングなど

●働く場所

病院、診療所、訪問看護、介護保険施設、社会福祉施設、看護の教育機関など
- 【保健師】

●主な仕事

乳幼児健診・母親学級・健康相談、生活習慣病予防対策、各種健診、高齢者や障がいを持つ人々の家庭訪問、介護予防の取り組みなど

●働く場所

保健所、保健センター、企業などの健康管理室、病院・健診機関、学校の保健室
- 【助産師】

●主な仕事

出産の介助、妊産婦への保健指導、産後の母子のケア、育児指導や、不妊治療を行っている夫婦の相談、思春期・更年期の性に関する相談など

●働く場所

病院、診療所、助産所（開業が可能）助産師教育機関、保健所、保健センターなど
- 看護師の仕事と聞くと、患者さんの健康維持や病気の予防、回復のサポートなどを想像しますが、それだけではありません。患者さんとのコミュニケーションを通じて、その背景や心の底に隠れた気持ちを理解し、それぞれの患者さんに合わせた日々のケアを行います。決して簡単な仕事ではありませんが、そのやりがいのある重要な役割で、医療現場を支えるために非常に大切な仕事のひとつです。

INTERVIEW 04

様々な人と交流することで成長。
多くのひとの支えになりたい。

看護師
東京大学医学部附属病院 勤務
神奈川県 百合丘高等学校 出身 〔 2013 年卒業 〕

金丸 紘子 さん



Q 看護師になったきっかけを教えてください。

A 看護師になりたいという思いが決意に変わったのは、同じく看護師だった憧れの母が、病気になり闘病生活を送っていたときです。看護師だった母の様に病気で苦しむ人の助けになりたいと強く思うようになりました。

Q 金丸さんにとって、
看護師とはどんな仕事ですか？

A 東大病院の看護師として入院から処置、検査治療、退院までをサポートしています。業務に追われることもありますが、医師や看護師スタッフ、コメディカルスタッフとの連携を回りながら成長を実感できる毎日。看護の積み重ねが患者さんやご家族の笑顔につながったとき、大きなやりがいを感じます。現在の目標は、緩和ケアについて理解を深め、認定看護師となること。多くの苦痛や不安を抱えるがん患者さんの支えになりたいと考えています。

Q ご自身にとって「医療」とは何だと思いますか？

A 人がもつ生命力を引き出すものだと思います。その人らしく人生を過ごすために、病によって欠けてしまったものを医療のちからによって補い、引き出していけるのだと感じています。